

第4学年 音楽科学習指導案

日 時 7月11日(土) 2校時

対 象 4年2組 32名

授業者 神 結花

1 題材名「音の動き方を生かして自分たちの旋律をつくろう！」(教育出版)

2 校内研究との関わり

本題材では、即興的に表現する活動を通して、音楽づくりの発想を得たり、音やフレーズのつなげ方の特徴に気付きながら旋律を表現する技能を身に付けたりする姿を目指す。本時では、それぞれがつくった旋律をもち寄り、4人組で集まって4小節の旋律をつくる活動を通して、どのようにして一つの旋律にしていくかについて方法を考え、学びの進め方を調整する力を育てたい。また、旋律やフレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取れるように、つくった旋律のよさを児童同士で見つけるだけではなく、教師も積極的に価値付けていくようにしたい。

本時では、「自律に向かう学び」のうち、以下の段階を位置付ける。

④ 児童が自分で方法を考える。

さらに、今回は、リコーダーのソ・ラ・シ・ド・レの5つの音から選んで旋律をつくる。この5つの音は、左手だけで演奏することができ、リコーダーの演奏が苦手な子も比較的取り組みやすいと予想される。また、できた旋律を聴き合う活動で、他のグループの旋律の面白いところなどを見つけ、伝え合う時間も設けることとする。これらのことを通して、

① 学習に関する多様性

② 認知・思考に関する多様性

を生かした学びにつなげたい。

3 本時の授業

(1) 目標

互いのつくった旋律をもとに、4小節の旋律をつくったり、できた旋律を聴き合ったりする活動を通して、互いのよさや面白さを感じ取りながら、音楽づくりの発想を得ることができる。

(2) 展開 2/2

学習活動	・教師の働きかけ ◎評価 ☆支援 □校内研究との関わり
1 前時の振り返りをする。 ○自分のつくった旋律を演奏する。 ○隣の人に、自分がつくった旋律を紹介する。 ○この題材のゴールを確認する。 4人組で、それぞれの考えをもち寄り、 4小節の旋律をつくろう。	☐ 今回の旋律づくりに使うことのできる音を確認する。実際にリコーダーを使って確認をしていく。 [多様性①] ☐ 友達の旋律を聴くことで、自分の旋律との違いに触れ、他の友達の旋律を聴いてみたいという思いをもたせる。[多様性②]
2 めあての設定 どんなせんりつをつくるとおもしろさが伝わるかな。	☐ 面白さは旋律づくりの工夫であることをおさえ、どんな工夫をしてみたいかアイデアを出し合うことで活動への見通しをもつ。[自律④]

3 4人組で4小節の旋律をつくる。

○どうやって4小節の旋律をつくっていくか、学習の進め方を話し合う。

- ・1小節ずつつくったから、4人でつなげたらいい。
- ・似ていたり、同じ音の動き方だったりしたら、グループの中で出ていない音の動き方に直してみるのもいいと思う。
- ・どんな工夫をしたのかをみんなで確かめてみるのも大切だと思う。
- ・演奏してみて、順番を変えたり、音を変えたりいろいろ試してみたい。

○学習の進め方をもとに、4小節の旋律をつくる。

- ・みんな違う音の動き方だから、いろいろな順番でつなげてみよう。
- ・音の動き方が似ている人同士でつなげたら、繰り返しみたいになって、追いかけてっしているみたいな音楽になって面白い。
- ・最後がソの音で終わったとき落ち着く感じがして、音楽が終わったのがわかる。
- ・他のグループを聞いたら、音の動きが1本の線になっていて、つながって曲みたいになっていていい。自分のところでもできないか。

4 つくった旋律を発表する。

○グループごとに発表する。

○演奏を聴き、面白さやよさについて感じ取ったところを伝え合う。

5 振り返り

○題材のまとめとして、自分の学習を振り返り、ワークシートにまとめる。

【振り返りの観点】

- ①できるようになったこと
(どうやってできるようになったか)
- ②わかったこと
- ③工夫したこと
- ④友達のよかったところや頑張っていたところ
- ⑤次がんばりたいこと

□これまでの音楽づくりを想起させ、学習の進め方を決めていく。[自律④]

・つくった旋律を発表する場では、つくった旋律の面白さも加えて発表することを伝える。

☆活動の進め方や子どもたちが考えた旋律づくりに使えそうな音楽的要素のポイントを整理して板書することで、活動中も確認できるようにしておく。

□つくった旋律の演奏方法は、一人ずつの演奏、複数人での演奏、全員での演奏などグループで話し合って決める。[多様性①]

・活動の途中で、近くのグループと発表する時間を設ける。旋律とそのグループの工夫を聞き、自分たちの旋律づくりに生かしていけるようにする。

・旋律づくりの過程や、友達の旋律を取り入れながら考え方や音楽が変化する様子を見取る中で、音の動き方やまとまり、終わり方、つながり方など、音楽を形づくる仕組みや働きの工夫を丁寧に読み取り、価値付ける。

◎音の動き方に着目しながら、音を試したり、友達の旋律を聴いたり、つなげたりして音楽をつくったり、発表したりしている。

【思考・判断・表現】

行動観察、演奏の聴取、ワークシート

□演奏や工夫したところを聞いて、自分たちとの類似点や相違点から面白さやよさを見付けられるようにする。[多様性②]

・振り返りでは5観点から振り返り、自分の学び方や友達の学び方のよさ、学習の中での気づきを意識させ、これからの学習に生かしていけるようにする。